

## EUSI メールマガジン Vol. 019 「国民投票を決断したキャメロン首相」(細谷雄一)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

### 【EUSI Commentary Vol. 013】

#### 「国民投票を決断したキャメロン首相」

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)

1月23日にロンドンで、デイヴィッド・キャメロン首相は自らの演説において、イギリスのEU加盟の継続を問う国民投票を2017年末までに行う意向を示した。本来は、その前の週の18日にこの演説を訪問先のオランダで行う予定であったが、アルジェリアでの人質拘束事件の急展開を見て、急遽予定を変更して演説を行う日程を延期した。そしてその翌週の23日に、すでに一か月前から綿密に準備されたこの演説を、議会下院での討議の前にキャメロンは実行した。このキャメロン首相の演説は、イギリス国内のみならず、EUやアメリカ政府内でも大きな議論の種となり、多様な反応が見られた。その多くは、今後イギリス政治が漂流する可能性を懸念するものであった。

キャメロンの演説は、70年前のヨーロッパ統合の出発への言及からはじまり、またチャーチルの名前やベルリンの壁崩壊にも触れながら、イギリスとヨーロッパとの関係を説き起こしている。キャメロン首相は、党内の親欧州派やイギリス国内でEUとのビジネスを深めている企業などにも配慮して、反欧州的な色彩は極めて薄い。あくまでも、イギリスがEUのなかに止まるべきことを考慮して、述べられている。たとえば、キャメロンは次のように述べる。「われわれはこれまで、いつでもヨーロッパの大国であり、これからもずっとそうでありつづける。」そして、「カエサル軍の軍隊からナポレオン戦争の時代まで。宗教改革から啓蒙時代、そして産業革命の時代や、ナチス打倒の時代まで。われわれは、ヨーロッパの歴史を綴ることをつねに手伝いつづけ、またヨーロッパもまたわれわれの歴史を綴ってきた。」そして次のように明言する。「私は、イギリスの孤立主義者ではない。」そして次のように続ける。「私はイギリスにとってよりよい合意を求めているだけではない。私は、ヨーロッパにとっても、よりよい合意を求めているのだ。」だからこそ、2015年の総選挙の際にキャメロン率いる保守党は、もしもそれまでにイギリスにとって望ましいかたちでのEUとの合意が得られていなければ、2017年末までにイギリスのEU加盟の継続を問う、国民投票を実施すると語った。

この演説をたまたま私は、ロンドンで聞いていた。キューガーデンズの国立公文書館で史料収集をする休息の際に、階下のカフェテリアにある大きなテレビの映像にキャメロン首相の姿が映っており、そして上記のような演説を行っていた。翌朝の新聞各紙は、特集を組んで、このキャメロン首相の演説と世界各国の首脳への反応、そしてオピニオン面では有識者の多様なコメントが載せられていた。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol13.pdf>

### 【EUSI イベントご案内】

#### EUSI-NECA 国際シンポジウム

「スマートコミュニティの展望と制御システム安全に関する日欧戦略的共同」

日時: 2013年2月14日(木) 13:00-17:30 (受付 12:30-)

会場: 津田ホール

言語: 日本語及び英語 (同時通訳付)

参加費: 無料

"Smart cities and communities - recent EU policy initiatives"

Uli Wienrich (駐日欧州連合代表部通商部一等書記官)

"ABB's approach to Smart Grid and successful Smart Grid City Project in Europe"

Claudio Marchetti (Global Solutions Manager Smart Grid, ABB AB)

"IEC and International Standardization related to Smart Grid"

Claudio Marchetti (Swedish Member of IEC SG3 (Smart Grid))

"Smart Grid and Electromobility - Smart, but safe?"

Michael Teigeler (DKE German Commission for Electrical Electronic & IT, DIN/VDE)

"経済産業省におけるスマート・コミュニティ政策全般(海外・国内を含め)"(仮題)

経済産業省

"新エネルギー時代における新たな視点での電気安全や制御盤安全の重要性"

鶴岡正敏 (オムロン株式会社 IAB 企画室主幹)

パネルディスカッション (司会: EUSI)

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20130214\\_symposium.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20130214_symposium.html)

<http://www.neca.or.jp/symposium/2013/tokyo.html>

### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

林秀毅 (EUSI 主任研究員・日本経済研究センター特任研究員)

「書評 細谷雄一『国際秩序 18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ』」

『週刊 金融財政事情』(2013年2月11日号)

<http://store.kinzai.jp/magazine/AZ/20132-3012.html>

林秀毅 (EUSI 主任研究員・日本経済研究センター特任研究員)

「第16回 最大の懸念はスペインの政治・経済情勢 ECBの政策展開とユーロ高にも留意」

『欧州債務危機レポート』(日本経済研究センター)2013年2月13日

<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi/index130213.html>

### 【EUに関するニュース】

2013年1月15日 Eurostat、12年11月対外貿易収支はユーロ圏で137億ユーロの黒字・EU全体で17億ユーロの赤字

2013年1月16日 ゲオルギエヴァ欧州委員(人道援助問題担当)、シリアの人的状況悪化懸念の声明発表

2013年1月16日 シュミッド EEAS 副事務局長、G8 政治担当局長会合参加。マリ問題など協議

2013年1月16日 独経済技術省、年次報告書にて、ECBは物価安定という本来の主要責務に戻るべきと強調

2013年1月16日 欧州自動車工業会(ACEA)、2012年EU域内新車販売台数は1205万台(前年比-8.2%)と発表

2013年1月17日 欧州議会、EUとモーリシャス・マダガスカル・セイシェル・ジンバブエとの通商・開発協定承認

- 2013年1月17日 アシュトン EU 上級代表、アルジェリアでのテロ事件に対する非難と国際的協調の声明発表
- 2013年1月17日 EU 外務理事会臨時会合、マリにおける EU 訓練ミッション創設や仏軍事介入支持確認などを協議
- 2013年1月17日 EU、ミャンマーとアラブ首長国連邦での EU 代表部開設発表。全世界の代表部・事務所数は 141
- 2013年1月19日 EU 全域で共通フォーマットでの運転免許証発行開始。人の自由移動・免許偽造対策の一環
- 2013年1月20日 アシュトン EU 上級代表、アルジェリアでのテロ事件終結に際して弔意と国際協力の声明発表
- 2013年1月21日 EEAS、EU 軍事参謀部内設置の西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)支援情報センター運用開始へ
- 2013年1月21日 ユーロ圏財務相会合、ギリシャのトロイカ合意内の 1 月目標達成を歓迎、2 回目融資へ前向き
- 2013年1月21日 ユーロ圏財務相会合初代常任議長ユンカー氏退任。新議長にデイセルブルーム蘭財務相を選出
- 2013年1月21-23日 EU・モルドバ FTA 交渉最終ラウンド、モルドバ首都キシナウで開催。最終合意へ詰めの交渉
- 2013年1月22日 エリゼ条約締結 50 周年、ベルリンで記念式典。仏独両首脳、5 月までに通貨同盟深化の提案策定
- 2013年1月22日 EU 経済・財務相理事会、11 加盟国での金融取引税先行導入やソマリア EU 訓練舞台延長など承認
- 2013年1月22日 ゲオルギエヴァ欧州委員(危機対応)、マリ訪問。対マリ人道支援を 2000 万ユーロ増額
- 2013年1月22日 欧州委員会、報告書にて、スペインが 2012 年財政赤字目標を達成できなかった可能性を指摘
- 2013年1月22-25日 EU・ベトナム FTA 交渉第 2 ラウンド、ブリュッセルで開催
- 2013年1月23日 キャメロン英首相、次期選挙で保守党勝利なら、英が EU に留まるか問う国民投票を実施と演説
- 2013年1月23日 駐日 EU 代表部、ビデオ・アート・シリーズ第 2 回上映会「Learned Something New」開催
- 2013年1月24日 アシュトン EU 上級代表、ケニア総選挙の欧州選挙監視団(EU EOM)派遣を決定
- 2013年1月24日 アシュトン EU 上級代表・フィーレ近隣政策担当欧州委員、ヨルダン議会選挙に対する共同声明
- 2013年1月24日 欧州委員会、クリーン燃料戦略を発表。共通基準・設計・使用法による代替燃料施設構築など
- 2013年1月25日 欧州委員会、上場企業の女性役員割合が 15.8%に上昇と発表。前年 11 月の数値目標発表の反映
- 2013年1月25-26日 チェコ大統領選決選投票、親欧州・中道左派ゼマン元首相当選。3 月に大統領就任予定
- 2013年1月26-27日 第 1 回 EU・ラ米カリブ諸国共同体(CELAC)及び第 7 回 EU・ラ米カリブ海地域(LAC)首脳会議
- 2013年1月27日 アシュトン EU 上級代表、国際ホロコースト記念日に寄せ、犠牲者追悼と人類の悲劇に対し声明
- 2013年1月27日 クレグ英副首相、キャメロン英首相による英国の EU 残留・離脱に関する国民投票案を批判
- 2013年1月29日 アシュトン EU 上級代表、イランでアラブ系活動家 5 名の死刑執行が迫った状況に対し声明発表
- 2013年1月29日 ピエバルグス開発担当欧州委員、アフリカ国際マリ支援部隊に 5000 万ユーロ支援を確認
- 2013年1月29-31日 EU・グルジア DCFTA 交渉第 5 ラウンド、グルジア首都トビリシで開催
- 2013年1月30日 欧州委員会、シリア援助に関する国際会議(クウェートで開催)で人道支援 1 億ユーロ分を公約
- 2013年1月30日 欧州委員会、鉄道業の質の向上と選択肢の拡大を目的とした第 4 次鉄道施策群を採択
- 2013年1月30日 欧州委員会、競争政策の観点から貨物配送大手米 UPS 社による蘭 TNT Express 社買収を承認せず
- 2013年1月30日 アシュトン EU 上級代表、ケリー米国务長官承認に対して祝意の声明

2013年1月31日 EU 外務理事会、対マリ支援・ソマリア問題・アラブの春に対する EU の対応などを協議

### 【編集後記】

今回は新年特別号の続編として、細谷雄一教授に寄稿をお願いしました。細谷教授は近著『国際秩序』などに見られるように、グローバルな視野から活躍されていますが、研究の原点は英国の外交史にあります。英国のキャメロン首相が EU 加盟の是非を問う国民投票を実施すると述べたことは、日本では単に英国の反 EU 的な姿勢を示していると受け取られがちです。しかしここでは、英国内にも親欧州派と欧州懐疑派があり、英国と EU との関係は従来から揺れ動いていることが指摘されます。経済面で英国と EU は切り離せなくなっているだけではありません。欧州危機への対応から各国の財政規律や構造改革に向けた指針が求められており、英国は EU にとっても、独仏とは違う独自の存在意義を持っているといえるでしょう。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

リスボン条約発効後、EU の対外活動を代表するのは、欧州委員会対外関係総局から、新設された欧州対外行動庁(EEAS)へと移りましたが、3 日前に欧州政策研究所(CEPS:本部ブリュッセル)がまとめた政策提言は、大変に興味深いものでした。「The New EU Foreign Policy Architecture: Reviewing the First Two Years of the EEAS」と題するその文書は、発足後 2 年が経過した EEAS の役割を再検証するものです。

主に、EEAS と EU 加盟国政府・EU 諸機関(特に欧州理事会・欧州議会)・外務理事会との政策調整、上級代表職(HR/VP)の役割、開発・人道支援・貿易・近隣諸国政策などの分野における欧州委員会との協力、EU 代表部と加盟国政府在外公館との関係の観点から、様々な検証を試みています。本報告書では、EEAS の役割を概ね好意的に評価する一方で、複雑な政策調整上の問題点を抱えているもの(例えば開発支援や人道支援など)も指摘しつつ、分析各部において提言を盛り込んでいます。

このような EEAS の役割に関する評価は、今回の欧州政策研究所(CEPS)の政策提言に限らず、すでに多くのシンクタンクで数多くの提言が出されています。EEAS が発足して 2 年余り、本年 2013 年には EEAS の組織のあり方や機能の見直しが行われ、来年 2014 年は見直しに基づいたマンダートの改正が行われる予定です。EU の対外関係を司る EEAS がどのように正統性や機能・対外代表性を発展させてゆくのか、今年はその大きな節目の年になってゆくでしょう。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー #3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---